風土記の丘の花だより280

今、そしてこれから見られる植物（2025年7月5日）

あっという間に梅雨が明けました。こんなに短い梅雨は私の記憶にはありません。読者の皆さんはいかがでしょうか。そして続いて、日を増す毎の猛暑、外歩きは大変です。

まずは、涼しげな花から紹介しましょう。日が少し傾き、４時を過ぎた頃、ユウスゲの花が開き始めます。旧柳川家の北側、池沿いの道で見る事ができます。「夕菅」というだけあって、夕方に咲き始めるのです。少し前に咲いていたトウカンゾウは黄色というより橙（だいだい）色でした。同じような言い方をすれば、ユウスゲは黄色というよりレモン色ですね。夕方の風にゆれる姿は更に涼しげに感じます。また同じ仲間ですが、対照的な印象の花が咲き始めています。

これがその花、ヤブカンゾウです。八重咲きの花びらがうねり、まるでゴッホの絵画のようで、真夏の暑さを更に増幅させる迫力を感じます。例年、アジサイと同じ頃に咲き、そのコントラストがきれいなのですが、今年はアジサイの方が先に夏バテしています。同じ仲間で次は、夏の終わり頃にノカンゾウが咲きます。このような仲間は「忘れ草」とも呼ばれ、昔は、いやな事や人を忘れるために植えたと言われています。

水辺に白くて小さな花が固まって咲いています。セリの花です。セリはまだ寒い頃に摘んで鍋料理でいただきますが、花はこんな暑い時期に咲きます。セリは言うまでもなくセリ科の植物です。野菜でいうと、ニンジンやパセリ、セロリなどと同じ仲間です。紀ノ川などの河川敷や堤防にはこれによく似た白い花がたくさん咲きます。とても大きくなるその草はノラニンジンという、これもセリ科の植物です。紀ノ川では春のセイヨウカラシナの黄色、初夏のナヨクサフジの紫、夏のノラニンジンの白が、季節の色になっています。風土記の丘ではなく、紀ノ川の話になってしまいました。すみません。

こんな赤い花も目立っていますね。ヒメヒオウギスイセンです。元は園芸植物で、モントブレチアと呼ばれるそうですが、園内のいろいろな所に勝手に生えています。秋に咲くオレンジ色のヒオウギは漢字では「檜扇」ですが、こっちのヒオウギは「緋扇・赤い扇」だそうで、フルネームが「姫緋扇水仙」です。どちらもアヤメ科で、同じヒオウギでもややこしいですね。

松下